

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第21号

発行 2011年11月21日

発行人 中村 晃

今日このごろ

坂 元 均

今後、定年を65歳とする企業が増えてくると聞きます。

私は、昭和50年に九州カネカ食品販売鹿児島出張所に出向し、昭和52年に退職させて頂きました。

約2年間充電の後、国家資格（土地家屋調査士）を活かして自由業を営み、年月は流れて春・秋数え、32年余が経過して現在に至っております。

還暦を迎えた後は、「仕事は程々に」と考えておりましたが、なかなか生活習慣の切換えは困難で、仕事を依頼してくれる顧客が続く限りにおいて、心身に支障を来さない事を条件に生涯現役を続けている状況です。

（つまり、死ぬまで仕事をしなければならない羽目になっています）

生まれは、「天璋院篤姫」が幼年期を過ごした薩摩今和泉（指宿市内）ですが、今回、“鐘化”で共に過ごした皆様とこの地で再会出来る事に何がしかの運命と大きな喜びを感じております。

ところで、“第2の人生”を過ごしてきました鹿児島市は人口60万人余り、やはりその象徴は“桜島と西郷隆盛”でしょう。過日も桜島に新築建物の登記依頼がありましたので、フェリーに乗って現地調査に行ってきた次第です。また、“南洲墓地（隆盛の墓）”は、錦江湾を隔てて桜島と向かい合った高台にあり、明治維新の多くの志士らが共に眠っております。

この寄稿に関して、中村支部長から、現役で仕事をしているレアケースとして紹介させて頂くとのことにご配慮に甘えて、少し重い話に感じられるかも知れませんがお付き合い下さい。

ところで、持家（又は区分建物・マンション）をお持ちの皆様は、自宅の土地の「地積測量図」又は「建物図面」が法務局に保管されている事を

ご存じでしょうか。この「図面」の下蘭に図面作成者の資格者氏名、押印があります。

この図面を添付して土地の測量・新築建物等の登記申請手続代理の仕事を30数年間、飽きることなく続けております。仕事の依頼を受けて、現地調査・測量の外業が約6割、登記申請手続等内業4割となっています。過密

市街地での仕事はそれなりの気配りが求められますし、郊外の山林原野では体力的な能力も必要ですが、これが健康増進に役立っていると言いますと不謹慎だとお叱りを受けそうです。

最近では、当事務所での土地の測量（地球上の位置の特定に繋がる）は、GPS

（人工衛星）も利用して行っており、法務局への登記申請は、電子申請（オンライン申請）です。既に多くの皆さんがインターネット、携帯電話等で地図情報（Google map など）を利用して如何なる場所の地図・画像も入手できる時代になってきましたので隔世の感があります。



南洲公園より桜島を望む



私共の仕事内容は、文系、理系を併せ持つ内容だと言われていますが、より高度の仕事に対しては、より専門分野の知識が必要となります。また、社会貢献は仕事を通じて全ての分野に求められる時代となってきました。平成5年頃からGPSを利用して測量してきた蓄積観測データを仕事以外に利用して貢献する研究の機会に恵まれました。



平成17年、57歳で鹿児島大学大学院理工学研究科博士課程システム情報の研究室に通い、“サーバ型RTK-GPSを用いた電力系統監視局設計に関する研究”の論文テーマで大学院生及び地元電力会社と共に研究を進め、その甲斐あってと申しましょうか平成19年3月に学位（博士・工学）を頂く事が出来ました。

米国ハワイとイタリア・ボローニアでの国際学会での論文発表は、忘れがたい経験の一つになりました。



一方、仕事を取り巻く環境において業界団体の組織との関わりも思わず知らずに取り込まれ、理事・役員を20数年務める結果となりました。監督官庁が法務省であることからそれなりの対応、勉強をさせて頂きました。

全く面映ゆい話になりますが、平成22年度の秋の叙勲・褒章において黄綬褒章を頂きました。昨年11月、法務省において褒章受賞式の後、皇居に赴き豊明殿にて天皇陛下の拝謁を受ける経験をさせて頂きました。余計な自慢話みたいになりましたが、ご容赦頂きますようお願い致します。



本年3月11日に発生しました東北地方大震災は、様々な分野に多くの試練を与えていますが、これを乗り越えられるのは人智の結集でしかない。

年々体力の衰えと記憶力の低下を実感するこの頃ですが、長年続けている趣味のゴルフと磯釣りは、自身で車の運転が出来る間は続けたいと考えております。これからも皆様と共に健康な日々を過ごして行きたいと祈念しております。



ベルリン観光見聞記

上野 與志隆

北九州市小倉の森鷗外記念会のメンバー11名で「鷗外のドイツ・ベルリン滞在時を訪ねて」というテーマで9月6日より一週間、ベルリン、ドレスデン、ついでにヘルシンキに行ってきました。3都市とも魅力のある素晴らしい都市でしたが、特にベルリンの街づくりに興味を持ち、ベルリンに絞って今回見聞記としてまとめてみました。

ベルリンの街づくり

1. ベルリンの街の原型は18世紀プロイセン王国の時に出来、今に見る都市景観の原型はこの19世紀ドイツ帝国時代に出来た。

1871年のドイツ帝国誕生以来、首都ベルリンには道路や橋、鉄道、上下水道の建設工事や帝国議会議事堂初め大規模な官庁舎を初め国家的規模の建物が次々と建設された。このように上からの都市計画に従った都市整備がなされ大都会となった。一方人口も増大し住環境はベルリンの西部及び南西部で開発されていった。

特に18世紀後半から19世紀前半に隆盛をみせた新古典主義(ギリシャ、ローマ古典復興)といわれる重厚で存在感のある様式の建物である新衛兵所、旧博物館、劇場(現在のジャンダルメン広場のコンサートホール)や、国立歌劇場、更には「赤い市庁舎」と言われる現在のベルリン市庁舎等々がベルリンを特徴付ける重厚な都市景観を形成している。また、ペルガモン博物館、旧国立博物館、ボーデ博物館、シャルロッテンブルグ宮殿等の文化遺産もロンドン、パリに負けないものである。



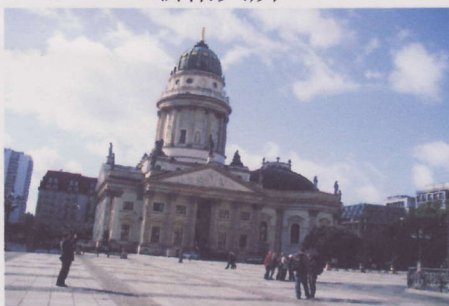
新衛兵所



旧博物館



国立歌劇場



ジャンダルメン広場ドイツ聖堂



劇場(コンサートホール)



赤い市庁舎



ペルガモン博物館



ボーデ博物館



シャルロッテンブルグ宮殿

2. 第二次大戦で引き裂かれた東西ドイツは1989年ベルリンの壁崩壊後、1990年10月に再統一された。1991年首都がベルリンと決り、現在新しい首都建設の真最中。大戦でベルリンの都市の60%が崩壊したといわれ、その後、議会場、行政機関、教会、ミュージアム、その他歌劇場等の重厚な建物は見事に昔の景観を残しつつ再建されている。



連邦議会議事堂



ベルリン大聖堂

現在のブランデンブルグ門の周辺は戦後東西ベルリン時とは全く異なって観光化している。また一方、旧東側の街に廃墟として建物の一部が残ったままになっているものもある。ベルリンで古い教会のひとつであるクロスター教会（森鷗外作の『舞姫』の舞台）や、かつて鷗外が良く使った南ドイツ方面への汽車の中央駅であったアンハルター駅の入口の残骸が記念塔の如く公園の隅に残っていた。



ブランデンブルグ門（壁当時）



現在のブランデンブルグ門



クロスチャー教会廃墟



アンハルター駅入口廃墟

また市街地ど真ん中の東ドイツ共和国宮殿は取り壊され、新しくドイツ帝国時代の宮殿建設をするということで、現在大工事中。ベルリン市民は「この街はどこに行っても常に工事中。困ったものだ」と言っているが、インフラの整備は日本と違って時間をかけて数百年耐える立派な建造物や都市設備を準備している。

3. ドイツの経済は現在ヨーロッパ経済の筆頭で他を牽引していると言われるが、実は東ドイツの復興を抱えており、内政問題は大変のようである。ベルリンの人口350万人といわれ、中心市街地は観光客も含め賑わっているが、中心地から少し離れた旧東ベルリン地区は市内とはいえ寂しく、服装も地味で、市民は未だ質素な生活をしている。若い者は職を求めて、西の方に移るものも多いと聞く。
4. ベルリンの空港については、我々はテーベル空港を利用したがこの空港は来年6月で閉鎖。現在ベルリン南部のシェーネフェルト空港を再建設中で、来年ブランデンブルク国際空港として稼動する予定である。
5. ドイツは原発をやめる方向で検討。電力の16%は既に風力、太陽光発電等エコエネルギーになっている。(日本では1%)ネオンも少なく、至るところで省エネに配慮され、交通機関も市内は高速電車、地下鉄と共に路面電車が街なかと住宅地とを結んでいる。そして軌道内は緑の芝生でヒートアイランド対策を打つと共に都会の中に緑があるのも落ち着きを感じさせる。
6. 現在日独交流150周年で、昨年10月より来年3月まで記念行事、要人訪問が交わされているが(今年1月の記念式典開催には皇太子も出席)、ブランデンブルク門広場では石井幹子氏デザインの「光のインスタレーション」というイベントが行なわれ、日独は非常に友好的な関係にある。

森鷗外のドイツ留学

1. 森林太郎は陸軍省派遣留学生として、1884年10月ベルリンに到着。
2. ライプツィヒ、ドレスデン、ミュンヘン、ベルリンと順に滞在した。
3. ベルリンでは北里柴三郎と共に、コッホ衛生学研究所で研究、ドレスデンでは軍医講習にも特別参加。
4. 軍医としての医学・衛生学の研究だけでなく、幅広く人脈をつくり観劇等を楽しみ、劇作、翻訳活動等文学的活動も積極的に行なった。

5. また、ベルリン滞在中2度も下宿先を変わった。第一の下宿先は現在森鷗外記念館になっているマリーエン通り32番地、二度目はクロスター通り97番地(コッホ衛生学研究所に近い。近くに『舞姫』にでる教会の廃墟がある)、そして三番目はグローセ・プレジデンテン通り10番地。特にこの三番目の下宿が『舞姫』の主人公太田豊太郎の下宿のモデルと考えられる。
6. 1888年9月に帰国。直後ドイツ人女性が来日、小説『舞姫』の素材。
7. ベルリンの森鷗外記念館
 - ① 1965年6月8日、川端康成、丹羽文雄、高見順3氏が旧東ベルリン市にドイツ文学を日本に紹介した森鷗外の功績を称える記念銘版を最初の下宿に取り付けるよう要請。
 - ② 1984年11月鷗外がドイツに到着した100年後を記念し、森鷗外記念室がオープン。設立には鷗外文学を翻訳したフンボルト大学のユルゲン・ベルト教授が貢献。
 - ③ 1987年中曽根首相の見学を機会に、旧東ドイツ教育省が記念館拡充。
 - ④ フンボルト大学日本学科が森鷗外記念館の建物に移転。日本学科の講義、研究の場となる。学術提携進み、翻訳・通訳者育成の過程で文化交流機関。
 - ⑤ 1990年、日本DDR文化協会と森鷗外記念会が協力して、記念館維持キャンペーン実施。ドイツ日本文化審議会で記念館の維持。運営基金調達。



森鷗外記念館



鷗外使用机とデスマスク



鷗外記念館 ボンデさんの講演後



フンボルト大学

以上

近 況 報 告 (例会案内の返信)

池田 広治

営業に施工にアフターに忙しくしています。まだ大きな戦力だと自分では思っていますので。

橋本 滋

特記事項もなく、平々凡々の日を過ぎしています。例会は、先約（大学同期会 於福岡）があり、主催者側として出席せざるをえません。九州新幹線にも乗ってみたかったのに残念です。盛会を祈ります。

石原 晋一郎

今年は胆石や白内障の手術等で久しぶりに入院生活が続いていますが、今のところ体調は回復して元気になりました。例年の如く鹿児島へも出かける予定でしたが、色々な行事や所用が出来て参加できません。

上野 賢二

今年ついに還暦を迎えました。カネカに在籍していれば、11月15日が定年退職日でした。還暦も定年も中々実感が湧きませんが、こちらの感慨などお構いなく着実に来て、そして行ってしまうものですね。

江崎 昭三

千葉県に転居してから早や一年。どうにか元気に暮らしています。未だに時々余震があり不安です。6月の東京支部例会で40年振りに懐かしい方々にお会いでき楽しいひと時を過ごしました。

薬師寺 是文

津久見市の建設業協会に籍を置いて8年になりました。不景気で就職が困難な時に元気で働くことが出来る幸福を感じています。

園 博

九州カネカ食品で2年目の契約更新を行い続く限り現役で頑張っております。妻も11月で定年、お互いに時間が取れる事で、孫の相手、映画鑑賞など平々凡々な生活を過ごしております。

成相 定雄

古稀と共に病院との付き合いが増えてきました。今回も都合が付かず失礼いたします。

古城 一洋

当日、中学時代の会と重なりますので、欠席します。

常森 喬紀・順子

相変わらず多忙。カネライトを使ったパネルシステムの引き合いが、増えてきてホッとしています。先日、松の木の剪定をしていたら、落ちかけて、思い切り腰をひねって――。皆様も、ご注意の程を。

後藤 祐吉

本年の春先少々体調を崩しましたが、昨今は1日1時間程の散歩を楽しむ程に回復しております。指宿での支部例会では皆様にご迷惑をかけないように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

広政 誠

稲刈りが10月中旬に終了。管理が良かったのか今年は豊作！作業はすべて手作業のため少々身体にこたえますが、子供達と一緒に楽しいものです。11月20日の餅つきが楽しみ！

青木 得志

中村氏のはからいで、9月末に天神で35年振りとのことでしたが、商社の開発にいた人と再開できました。ちょっとはしゃぎ過ぎたかなと思いました。

上野 與志隆

古希を過ぎますと体力・知力・精力・気力全て落ちますが、血液検査の数値は上がってゆきます。

山中 俊一

今年の5月に再雇用期間が終了しました。仕事をリタイアすると、体もリタイア状態になるのだとつくづく感じます。今はリフレッシュすべく、妻と歩いたり、酒も休肝日を設けたり、肥らないように食べ物を良く噛んで食べたり、以前の私からは想像もつかないほど真面目に生きております。

檜崎 賢治

年齢のせいで風邪をこじらせ肺炎になり9月28日～10月5日の間入院しました。

川上 義人

特別養護老人ホームへお袋が入居できましたので、少しノンビリゴルフに励んでおります。しかし、2ヶ月に1回は、伊予西条に帰っています。何とかスコアの向上を目指し、ゴルフクラブも買い換えましたが、一向に良くなりません。ゴルフ5でヘッドスピード34.5m/秒と言われ大ショックでしたが、真面目に練習に励んでおります。毎日の歩行1万歩以上は6年余続けています。

市木 丞

野山の散策に絶好の季節になりました。低山歩きを楽しんでいます。

永井 辰夫

11/21・22は研修会が実施されますが、懇親会に間に合うように頑張ります。

【平成23年度支部活動報告】

◇既に実施した行事

年	月	日	活 動 内 容
23	01	25	(鐘華会全体役員会)
	02	01	(鐘華 64 号)
	02	14	支部幹事会 (小倉にて)
	04	19	職場訪問・懇親会 (11 名 / 15 名)
	04	20	第 5 回山九会・太宰府 G C (6 名)
	05	15	支部だより第 20 号発行
	07	27	(鐘華会全体役員会)
	08	01	(鐘華 65 号)
	09	26	支部幹事会 (福岡にて)

(特記事項)

* 職場訪問はカネカメディクスへ (既報)

* 山九会は太宰府 G C (既報)

◇これからの予定

年	月	日	活 動 予 定
	11	21	支部だより第 21 号発行
	11	21	支部例会 (鹿児島・指宿)
	11	22	第 6 回山九会 (いぶすき開聞 C)

(会員の異動)

* 逝去 謹んでお悔やみ申し上げます

曾我 貞二さん (享年 102 歳)

逝去日 平成 22 年 6 月 24 日

(事務局に事後連絡)

【支部活動費 23 年度予算・半期実績】

項 目	22 実績	23 予算	23 半期実績
支部だより送料他	11,889	13,000	4,836
例会写真代他	6,361	7,000	0
職場訪問通信費	4,950	5,000	3,050
幹事会通信費補助	4,000	4,000	2,000
例会通信費	3,577	4,000	0
その他	120	300	0
合計	29,897	33,300	9,886

(特記事項)

* 特になし

【定例役員会報告】

◇平成 23 年 7 月 27 日、カネカクラブにて定例役員会が開催された。

◇主な内容は下記の通りです。

①山崎会長挨拶

東京、鹿児島各支部例会に参加。カネカクラブで開催されている各展示会の展示状況を「鐘華」やホームページに掲載して欲しいという要望があったので、編集委員会で検討して欲しい。

②平成 23 年度中間報告について

- ・支部活動費は各支部とも適正に行なわれている。

③各支部活動報告、活動計画について

(高砂)

- ・支部長 田中義一さん → 片寄栄二さんへ。

三浦保さんが副支部長に就任。

貝塚副支部長は留任。

(大阪)

- ・例会：10 月 22 日 (土) 予定。

講演会「坂本龍馬死後の坂元家とおりょうさんの生涯」 森原 勝司さん

(滋賀)

- ・例会：11 月 10 日 (木) 予定。

- ・役員交代

編集委員 村上一夫さん → 貴堂雅路さん

支部会計 高橋賢二さん → 永峰誠一さん

(鹿児島)

- ・東日本大震災で家族を含め全員無事を確認した。

- ・6 月 17 日 (金) 支部例会を実施した。

(本社)

- ・例会：10 月 21 日 (金) 支部例会予定。

(東京)

- ・春のゴルフ会と散策会は東日本大震災で中止。

- ・6 月 13 日支部例会実施。53 名参加。

(九州)

- ・11 月 21・22 日例会を鹿児島・指宿にて予定。

- ・4 月 19 日職場訪問、20 日ゴルフ開催した。

あとがき

- ・九州支部の最高齢の曾我貞二さんが昨年 6 月に逝去されていることが、判明しました。

“ 謹んでご冥福をお祈りいたします ”

- ・坂元さんは、指宿出身であり、カネカを早期退職後、素晴らしい第 2 の人生を送られているので、その様子を書いてもらいました。きっと大変なご苦労もあっただろうと推測します。

- ・「ベルリン観光見聞録」は、上野さんから編集済みの原稿をいただきましたので、そのまま掲載しました。

森嶋外は、小倉に明治 32 年から 34 年まで軍医部長として滞在しました。その時の日記が「小倉日記」です。そのことを書いた「ある『小倉日記』伝」で松本清張は昭和 28 年、芥川賞を受賞しています。

- ・「アラブの春」に刺激されて Face book 始めました。結構、面白くて、はまりそうです。最近のマスコミの報道がつまらない。これだけ国民の意見が割れている「TPP」や「増税」について大手新聞が一斉に賛成の論陣を張るなど、違和感を覚えます。少し、インターネットにのめりこみ過ぎでしょうか？